

第 18 号

発行
富士市消防団

富士市永田町1丁目100番地
電話(0545)55-2851
(0545)55-2852
FAX(0545)53-4633

消防団だより



平成十九年四月より第十七代消防団長に就任いたしました。団長就任に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。消防団の皆様には、日頃より市民の生命・身体及び財産を守る為、日夜ご尽力を頂き心より敬意を表する次第であります。

現在の富士市消防団を取り巻く環境は大きく捉えて申しますと、消防団員数が定数九百名に対し七百九十名と明らかに団員不足の状況にあります。この傾向は全国いずれの地域に於いても同様で、総務省を中心に団員確保の為の政策を打ち出しております。

例えば、機能別消防団員の登用、事業所の協体制強化に向けて、『消防団協力事業所表示制度』の導入、地方公務員の入団を可能化等々の国民への普及啓発に大変努力を注いでおります。富士市消防団といたしましても団員の若い友人への入団の働きかけ、定年以前での有能な役付(幹部)団員の退任予定者には定年まで消防団活動を継続できるような制度の確立や日頃の消防団活動を

地域に精通し 即戦力となる消防団

富士市消防団長 山本 信英

効率的に実行し、団員の負担軽減を図り入団しやすい魅力ある消防団の環境づくりを進めなければならないと考えております。加えて市民の皆様のご理解・ご支援を頂ける様、消防団としての広報活動にも創意工夫をして参りたいと思っております。

平成十九年度は訓練を通しての消防団活動の集大成として、静岡県消防操法大会に於いて、小型ポンプ操法(第三方面隊)の部に準優勝の栄を受け、且つ個人賞として小型ポンプ操法・ポンプ車操法双方の部で最優秀選手(第三方面隊員)に選ばれるなど、県内はもとより全国に名を馳せることができました。

幸いなことに市当局のご配慮により、消防団の近代化は着実に進んでおり、最新機能を装備した消防ポンプ自動車を定期的に更新配備して頂いております。十九年度も第五分団・第二十六分団に配備されました。分団の消防詰所も建て替えや耐震補強工事が順次実施されております。これらを十二分に活用していただく為にも適正団員の確保が急がれるところであります。

更に平成二十年度は、行政として富士川町との合併の年であります。消防団といたしましても合併後の消防団体制について協議を重ねて参りました。合併後は富士市消防団として一団制を敷き、富士川町を方面隊として組織化することへ至りました。

今後、尚一層の研鑽を積み、地域に精通した要員動員力の有る即戦力として最大限の力が発揮出来る新生富士市消防団として一致団結をお願いしご挨拶いたします。



市長賞 作品名 フィナーレ
出品者 村瀬 富男



議長賞 作品名 夢は消防士
出品者 勝本 仁



消防長賞 作品名 放水のあとで
出品者 青木 俊文



消防団長賞 作品名 一致協力
出品者 保科 翠



防火協会賞 作品名 チームワーク
出品者 鈴木 政美



防火協会賞 作品名 チームワーク
出品者 鈴木 政美



新分団長抱負

第十五分団分団長 金指良巳

今年四月に山本団長より辞令を頂き、本団に十五分団の分団長になったのだという実感が湧いてきました。

歴代分団長のように手際良くは出来ませんが、自分なりに努力し、この十五分団を引っ張りまわっていききたいと思っております。

今大変嬉しいことに十五分団員が全員まとまり自分の下で副分団長、部長、班長、団員、全員が一つになって分団活動に精を出しています。

私は分団長として地域とのつながり、有事の時の役割指導、地区とのコミュニケーションをとって理解をしていただけですが、新入団員の確保にもつながるものだと確信しています。

あと放水訓練、地区の消火栓、防火水槽の確認を行い、火災等に対応できる様、分団員の技術、意識向上に努め、先輩たちが築き上げてきた伝統を守り伝えながら、地域に頼られた親しまれる新しい十五分団になるように、団員達と共に努力していきたいと思っております。

分団長の抱負

第十三分団分団長 山本雅弘

私が分団長という責務を意識し始めたのは部長になってからです。初めて山本部長と呼ばれたとき、ドキッとしたことを思い出します。それから諸先輩を見ながら分団長になる意識が徐々に高まってきたと思います。

私は、分団長として消防団員の優さを集め、それが他に対して行動力となっていけるように仲の良い分団を目指していきます。

消防団員は、各自仕事を持ち、そこに地位やプライドもあると思いますが、各自それらを消し去り互いに傲慢高姿勢にならぬよう、分団長自ら行動したいと思えます。火事場へ行けば仲間の大切さが分かります。たとえ分団長でも一人では何も出来ません。お互いの思いやりの連携が、安全かつ素早い消火活動につながると思います。消防団員はどんな時でも出動の声を掛かった時、そこに集まった仲間顔を見れば元氣と勇氣が湧いてくる事を身を持って体験しております。

また、地域の皆様には消防団活動にご理解を頂けるよう日々努めております。



富士市消防団 第四分団詰所落成式

第四分団団員 佐野晶彦

『新装開店』思わずワクワクする響きのこの言葉。消防団の詰所の新築落成式の言葉としてはふさわしくありませんが気分は『新装開店』です。

平成十九年一月二十八日、富士市消防団第四分団詰所落成式が盛大に開催されました。



『式』と名前がつくものは大体が段取りが大変です。結婚式、葬式、入学式に卒業式。参加する方は、当日、それなりの格好で時間通りに来ていただければいいのですが、お迎えする方は本当に苦労が多いです。私のような平団員では計り知れない苦労が四分団幹部にあつたことは容易に想像できます。

紙面を借りて申し訳ありませんが、本当にお疲れ様でした。そして、ご来賓いただいた方々につきましては、本当に有難うございました。

さて、私は入団して六年と消防団暦は浅いのですが、それでも旧詰所には様々な思い出があります。十代後半から二十代前半を関東地方で過ごした私は、残念ながら地元町内やお祭り、慣習についてあまり知りませんでした。しかし、消防団に入団して多くの先輩

から地域に関する情報をいただきました。それは『分団詰所』というひとつの地域に密着した交流の場があったからです。消火活動の後、訓練の後、定例会の後、夜警の時など、古く不衛生な詰所でしたが、親しみと愛着の持てる詰所でした。さすがに、解体工事に入る直前の定例会では、名残惜しい気持ちがあふつと込み上げてきて、自然に涙が・・・というようなことはまったくありません。新築の方が全然うれしく！！

小汚い、ゴキブリとねずみのワンダーランドより、エアコン、地デジ完備の詰所の方が良いに決まっています。なにわともあれ、新しい詰所は分団員の励みになります。

数十年に一度の詰所の落成式に立ち会えたこと、そして地域に密着した新しい詰所。今後もこのことを忘れずに、防災および消防活動に励んでいきたいと思っております。



新型ポンプ車配備

第五分団団員 鈴木康仁

十二月五日、消防庁舎の前で第五分団、二十六分団の消防ポンプ自動車引渡し式が行われました。入団して三年目、古いポンプ車に私自身特別強い思いがある訳ではございませんが、他の長く勤めている団員にとっては長い付き合いのポンプ車が代わると言う事に、何か思うところがあったのではないのでしょうか。ただ、五分団、二十六分団の各旧型ポンプ車は、それぞれ市内の他分団の予備車両として使われると聞いて、皆安堵の表情をしたのを覚えております。

しかし、感傷に浸っているのも束の間、新しいポンプ車を初めて見たときは気が引き締まるような思いをいたしました。新型ポンプ車は、自動車自体の性能もさることながら、ポンプ能力も格段と向上し高性能仕様となっております。皆、車体の説明、ポンプの説明をいち早く自分のものにしようと真剣に聞いておりました。

今後は、新しい消防ポンプ自動車の取り扱いに習熟して、地域住民の皆様への期待に応えられる様団員が一丸となり、日々活動していきます。



若葉の鮮やかな平成十九年五月十三日、富士市公設地方御売市場にて、新入団員教育が行われ、私の所属する十八分団からは私を含む四名の新人団員が参加させて頂きました。

昨年の十月に、近所に住む団員の方に声を掛けていただいたのをきっかけに入団し、基礎知識など何もありません。現在に至ってしまい、団員同士の挨拶をするのにも先輩の挨拶を真似て行っておりまして。そんな私にとってこの研修を迎えることは、本当の消防団員なる為の研修でした。

当日の朝、他の三名と車一台に乗り合せ公設市場に向かいました。案内に従い二階の会場に入ると既に六く七名が着席しており、開始の五分前ともなるとほぼ全員の二十名ほどが時間通りに着席しており、その場の緊張感で圧倒されました。

新入団員教育を終えて

第十八分団 団員 山本友和



時計が九時を指し開会式が始まり、山本消防団長の訓示・鈴木副団長のお話と研修が進んでいき、お話の中では消防団員としての責任と心構えとして、消防団員はボランティアではあるが同時に特別職の非常勤公務員という立場にあるのだから節度のある行動をとらなければならぬというお話がとても印象的でした。その後、菊岡管理課長より消防団の概要や活動・処遇などお話し頂き講義が終了するといよいよ外に出て訓練に入りました。訓練では、個人・部隊訓練とポンプ車・小型ポンプの各操作を研修し、敬礼の仕方から礼の角度まで細かく丁寧に指導いただき、行進の練習では、向きを切り替える際に自分の足を踏んでしまい、先輩方がやるようにうまくいかず、改めて大変さを知りました。

今回の研修を通して、消防の大変さや、地域での役割を知ることができ、とても勉強になりました。火災など無いに越したことはありません。そのために今後の活動の中で予防を呼びかけ、そしてもし火災が起こってしまったとき対応できるスキルを身につけておくことが今後の課題です。今回の研修で学んだことやこれから経験することでも自分たちの地域の役に立つことができたいと思います。



消防団員なんて思ってた、と驚いていました。

ところが、話を聞いてみると、消防団には女性団員や学生団員もいて、消火活動のほかに、広報活動や防災活動、防災学習の普及・指導など、いろいろな活動があり、大変な仕事です。消防団は、まさに地域にはなくてはならない存在なんです。でも、消防団の活動内容があまり知られていないので、団員が足りません。だから

消防団員募集



二十二分団地域活動

第二十二分団 部長 岩崎陽人

消防団に入団して、早、二十年がたちます。我分団は丘地区と厚原西区を管轄にしています。その消防団活動において、いかに地域の皆様のご協力、ご理解が必要であり、それがもつとも大切なことだと感じています。分団としては、地域の行事にはなるべく参加しています。また、分団からの呼びかけで、年度前半の五月に区長との連絡会、六月に丘小学校消防団説明会、それに三回地区への消防団説明会、それと年四回自主防との放水訓練などを行っています。特に、自主防との放水訓練は大切だと思っています。一緒に訓練することによって、団員は教える立場になるので、一生懸命訓練します。消防団員としての自覚も生まれます。

毎回自主防の人達も熱心に訓練しています。また、分団と自主防の連帯感も生まれてきます。大災害が起きてしまった時、消防団員と地域の連携は大変重要になってくると思います。そのため、日ごろから消防団の活動を地域の皆様にアピールしコミュニケーションをとることが大切だと思っています。また、消防団員一人一人が自分の地区の防災リーダーになっていく必要があると思います。二十二分団も地域の皆様から信頼される分団になるよう努力していきたいと思っています。

部長として

第十二分団 部長 鈴木和也

四月に佐藤分団長より辞命を頂き身の引き締まる思いです。入団して今年度の十月で二十四年になります。入団時は詰所が自宅の前にあり(後に移転)出勤の時など、一番に出勤して消防車を運転していたのを覚えています。

最初、新入団員教育を受ける前に訓練式で県大会に出場して、新入団員教育が免除になり、礼式以外の動作が分からず、式典の時など困ってしまつたのが懐かしい思い出です。しかし、一番に残っているのは、火災の恐ろしさです。十年前の山林火災では水筒がなく、タンク車も入れず、ヘリコプターで水をまきました。風が吹くとまた燃えだし、結局朝出勤して、夜になつてやつと鎮火しました。それから家族でもどんな小さな火でも消すよう心がけるようになっていきました。工場の火災では、内部が燃えていたのでシャッターの横の入口のガラスを割り、筒先を持って入っていった所、ガスで目まいがして命の危険を感じました。その後、外に出て放水していた時に火の気もないのに内部の熱でシャッターの前に止めてあったトラックが急に燃えだし、熱の恐ろしさを知りました。多分、経験しなければ分らないと思いますが、地域に根強くコミュニケーションをとり、他の団体の皆様と協力し合つて地域住民の方々に火災の恐ろしさを知っていただき、なおかつ予防してもらいたいと思います。

異業種、年令の違う仲間との出会いがあり、自分自身にも大きく役立ち、続けてよかつたと思つています。これからも初心を忘れず、火災のない富士市を目指して活動していきたいと思つます。





第31回 静岡県消防操法大会出場隊 ポンプ車操法の部 小型ポンプ操法の部

小型ポンプ操法の部

第3方面隊
 指揮者 第9分団 班長 石川博章
 1番員 第9分団 団員 松下厚作
 2番員 第9分団 団員 清水博喜
 3番員 第9分団 団員 竹内克憲
 補助員 第9分団 班長 小野政敏



ポンプ車操法の部

第3方面隊
 指揮者 第8分団 部長 仁藤栄彦
 1番員 第8分団 団員 小松崎修達
 2番員 第8分団 団員 矢崎弘康
 3番員 第8分団 団員 本多弘康
 4番員 第8分団 団員 石川友也
 補助員 第8分団 班長 芹沢晴彦



五年目の出初式

第十七分団 団員 大久保貴彦

私は、平成十五年十月に消防団員として第十七分団に入団しました。丁度今年で五年目になります。入団のきっかけは、同じ職場に勤めている消防団員の人に誘われたからです。それまで消防活動は勿論の事、地域で行われる行事などにもほとんど参加した事が無く、あまり関心がありませんでした。そんな私ですが、入団してからは、地域の行事にも参加する機会も増え、人とのふれ合いの大切さやこんな私でも役に立てる事を実感できるようになりました。

さて、今年で五回目の出初式ですが、朝から雨のparaついている中行われしました。開会宣言から始まり、市長による観閲が行われ、永年勤続者やその家族、退職消防団員等、地域防災にそして長年消防団活動に協力してきた諸先輩方の表彰が行われ、来賓の方々からのお祝いの言葉を頂き、閉式宣言で式典は無事終了しました。

次に消防団員による分列行進が披露され、消防音楽隊とカラーガード隊によるドリル演奏、そしてはしご車とポンプ車による一斉放水など、さまざまなイベントが行われ無事に平成二十年消防出初式は終了しました。

毎年出初式の日ほとんど晴れ模様なのですが、今年は朝から雨がパラついていて、一時はどうなるのかと不安でした。でもやっぱり年始めの出初式で一斉放水が披露できたので、今年も良い一年になりそうです。



第三十一回静岡岡原消防操法大会

第九分団班長 石川博章

照りつける太陽の中、第三十一回静岡岡原消防操法大会が行われました。私たち小型ポンプ操法要員は、この日の為に毎週二、三日の訓練を重ねてきました。

大会当日は、多くの消防関係者が見守る中、操法演技が二番目という事もあり緊張感一杯で待機線に整列しましたが、指揮者の『集まれ』の号令で自然と気合が入りました。いざ操法が始まると「あつ」という間の出来事でしたが、いつもの訓練の様にできました。終わった瞬間当初の目標としていた大会で四十二秒台をクリアすることもでき、結果はどうあれ自分の持っている力を精一杯出し切れたと感じました。

大会成績は見事「準優勝」！惜しくも優勝と全国大会出場を逃しましたが納得のいく成果を得られたと思います。最初、訓練を始めたばかりの頃、何をしたらいいのかも分からなかったのに、県大会の舞台に立っている事が夢のようにあり信じられないと選手五人も感じました。と同時に、この準優勝の意義はこの後の長い私たちの消防団活動の姿勢に関わってくるであろうと思います。訓練の準備等、お手伝いをしていたいただいた消防団各位には感謝の思いを持ち、今後の私たちの活動を通して恩返ししていくつもりです。

また、指導員の皆様には、本当に長い間お世話になりました。富士市の操法が県大会のみならず、全国大会を手の届く内容であることを少しでも証明できたのではないかと今では思えるようになりました。次に続く皆さん、是非がんばって下さい。



これまでの訓練の結果

第八分団団員 石川友也

長い訓練も終わり、今では「あー、やっ」と終った」という気持ちです。三年前の十月にポンプ操法の四番員の役を任されることになりました。この時から訓練の日々が続ききました。しかし、市内大会の日が弟の結婚式と重なってしまい、急遽選手交代、分団内で選手を決め、増井さんに市内大会に挑んでもらうことになりました。その結果は結婚式の最中、驚くような報告を受けました。

「大型・小型第三方面隊優勝」、びつくりしました。消防OBでもある父も大喜び、結婚式の挨拶の中で大会の結果を発表しました。親子共に大興奮の一日でした。私の代わりに出場していただいた増井さんには短期間で最高の結果を残していただき大変感謝しております。本当にありがとうございました。

この結果を無駄にしないようにと訓練を続け、支部大会でもみごと優勝し、県大会へのキップを手に入れました。

県大会では、ものすごく暑く、順番も十番目と待ちくたびれるほど時間が長く感じられました。待機中でもゆっくりにしている時間もなく、出場隊の操法を見たり、ポンプ車を見に行ったりで落ち着いていられませんでした。そうこうしている間に順番がきました。

ポンプ車を定位置につけて待機線へ、指揮者の号令で操法が始まりました。第一線放水が終わる、第二線延長、この時から右足がガクガクし、震えを抑えようとしても止まらず、支部大会では感じる事がなかった緊張感でした。終わってみると支部大会の操法の時の方が良かった気がします。県大会というのはいままで味わったことのない雰囲気です。それに負けてしまったような気が



しました。いろいろ反省しているうちに結果発表が始まり、ポンプ操法は入賞することができず「ああ、だめだったか。」と思っていると、最優秀者の発表、「あれ、何？おれ？マジで！」、ポンプ操法の部四番員で自分の名前が呼ばれ、唖然。「なんで俺が？」と思ってしまうました。表彰台に立った時、本当に自分が選ばれたんだと実感しました。この賞をとれたのも指導員や訓練の手伝いに出てくれた人みんなの力があつたからこそだと思います。この大会に挑んだ六人は最高の仲間であり苦勞を共にしてきたメンバーでした。それから家族には、大変迷惑をかけた数年だったと思います。嫌な顔もせずを送り出してきてくれてありがとう。犠牲にしてきた事が多かったけれど、ポンプ操法で四番員最優秀賞がとれたことは本当にうれしいです。

訓練結果

第十二分団団員 勝又栄次

「集まれーっ！」

指揮者の号令と共に、二十人で編成された部隊の足音が、一つにまとまりながら前進する。

振り返れば、訓練礼式の訓練開始当初は、皆の動きが全てバラバラの状態だったのが、約四ヶ月間の練習で、一糸乱れぬ動きに変わり、訓練大会の日に、最高の力が発揮できました。

私の所属する第二方面隊は、一番最初に披露するというプレッシャーの中、優勝という、見事な結果を出す事ができました。その練習の中で度々、指導員の方々に、注意されたり、怒られたりしました。雨が降っていても、顔に虫が止まっても動けないという、とてもきつい練習でした。

そのお陰で、富士市の代表として富士宮、芝川の二市一町で競われる支部大会に出場することができました。支部大会の訓練礼式の練習では、更に厳しく指導してもらいました。優勝には至らなかったけれど、全員で更に一致団結できた訓練礼式が披露することができたと私は思います。

今思えば、ここまで我々ができたのも、今まで経験したことのない、厳しい練習があつての事だと思えます。この経験を生かして、今後、ポンプ車操法にも積極的に、協力していきたいと思っています。忙しい合間を縫っての訓練にもかかわらず、このレベルまで到達するまで教えてくださった指導員の皆様や各分団の方々には、大変お世話になりました。

またこのような消防団活動をするにおいて一番欠かせないのが、多大なる理解や協力してくれる家族なくしては成り立たないものだと思われました。本当に皆様、協力してくださってありがとうございました。

一消防団員として

第七分団団員 鈴木 純

「火点は、前方の標的、水利はポンプ右側後方防火水槽、手広めによる二重巻きホース、一線延長・・・」

二年前、分団の先輩達が出場した静岡岡原消防操法大会を見て、胸にグツグツとくるものを感じました。私は、消防団に入ってから丸五年たちますが、入団以降自分のなかの消防団の自覚というのがプラスの意味でものすごく変化してきたと思います。先輩達が出場した県消防操法大会の舞台に立ちたいという気持ちがあつて強くなりました。消防団の活動として消防祭りやソフト

ボール大会や地域の文化祭、体育祭などの参加など色々あり、市民や町内の人達などに消防団というものを知らせてもらつたり触れ合つたりするという事はすごく大切な事だと思えます。でも消防団としての一番の主旨とは、より速く火事場へ行き、より正確に火を消す事にあると私は思っています。もし火事のとときに先輩達がいなくて自分が先頭に立つてやらなければならぬ場面がこの先あるかもしれません。

そんな時、消防操法をやつていれば火事場での対応が、少なくともスムーズに出来ると思えます。

火事場での話しになります。私の分団は本部より速く火事場へ到着し、私は、管そうとホース一本を担いで二階のベランダに上がり消火することができました。本来あつてはならない火災ですが、その時私は消防活動しているんだと実感しました。

そんな一消防団の私ですが、火事場での対応、消防操法など私の分団の先輩達に肩を並べられるようになる事が私の消防団員としての目標のひとつです。





がんばれ消防団

第三分団員家族 松岡 秀子

「きりり」とした男性達が店に入ってきた。十人ものお客様でどにか座れるくらいの小さな飲食店で

その男性達は、昼間の各自の勤務を終え、今夜の全体会議を終了したばかりの消防団の方々です。会議の話はまだ続いている様ですが、お酒が入って、いつしか男性達の顔は笑顔に変わりやかな雰囲気の間となっていました。訓練大会は、富士市公設市場の広場です。制限制帽に半長靴の各分団を代表する選手達は、規律正しい動作で声を出しながら規定どおりの行動を次々と展開して行きます。本気で一生懸命なその姿は観客にも充分真剣さが伝わってきます。分団がひとつになつて長期にわたり会議を開き、練習を重ねてこられた成果は実に立派で、感動しました。我が家からも娘婿が、選手として参加しています。消防団員は、世代を越えた自主参加のボランティア

活動だと聞きます。年間をとおして、数多くの活動を行い、町内はもとより地域全体の生活が、安全であり続けるよう「かけがえのない尊い命を守る」を目的とし、組織をもって訓練、大会を続けられるのだと思います。

消防団家族は分団の活動を応援しています。「安全な生活をありがとう」の言葉を送り、つたない文章ですが感謝の気持ちを伝えたく、ペンをとりました。「我が町を我が手で守る消防団」プロ足れと願う。

父と私と消防団

二十四分団員家族 渡邊博也

私の父は、消防団員です。私の消防団に対するイメージは、地域を守るとても頼りになる存在だと考えています。仕事を続けながらどうしてそこまで頑張れるのかといつも不思議に思っていました。

父は寝ていても無線の音やサイレンの音ですぐに起きます。そして火災の時には、すばやく家を出ます。私は鎮火の広報がなかなか鳴らないと心配に

なり、たくさん消防団員の方が火事場で作業していると思うと複雑な気持ちになります。

先日、私は父の所属する二十四分団のソフトボール練習へ来ないかと父に誘われ参加する事にしました。練習に行くに団員のみならずとも爽やかな挨拶をしてくれとても気持ち良かったです。練習中には団員のみならず子供のように楽しみながらプレーしていました。私もとても楽しい時間を過ごす事ができました。そしてなによりも団員みんなで過ごす楽しい時間と強い意志が大変な作業や訓練を続けていく力だと確信しました。

私は二十四分団のためになにかできないかと考え小学生の頃からボースを豊ませてもらう小学生の総合学習の際には、語所のシャッターに絵を描いたりしてきました。今の私にできる事はこれぐらいしかありませんが、これからも続けていきたいと考えています。

今、地球上では様々な異常気象が起きています。日本も例外ではありません。そんな時必ず消防団の力が必要になります。私は、一番身近な頼りになる消防団であってほしいと思います。私は今、高校三年生で将来の事はまだ分かりません。しかし消防団員には必ずなりたいと考えています。父や富士市消防団員のみならずには若さと元氣を持っていつまでも頑張ってもらいたいです。



今年の消防まつり

第二分団 班長 佐野文彦

今年の消防まつりほど天候を心配したことはなかった。前々日の天気予報では当日は「雨」。小雨決行という消防精神をうかがわせる開催予定ではあるが、やっぱり気分は盛り上がりた。お客様が来てくれるのか不安であった。色とりどりの花も仕入れ、明日の準備も整った。分団長が明日の集合時間を告げる。ポンプ車庫に響き渡る声、いつもの「一応」にも力強さが無く聞こえた。花の色とは対照に自分の心は白黒だった。当日朝、正に曇り。しかも、走り出した車のフロントガラスに、雨粒が「やっぱ、きたか。」乗っていた皆がそう思ったことだろう。会場に入つて、テントを張って準備をしている我が分団の前では、消防音楽隊がフォーメーションを組んで音を出している。その音は、まるで、今日の開催を市民に知らせるかのよう、曇り空高



くなっていた。「消防まつり開催します」皆さん来て下さる。とお店のセッティングの間にお隣を見ると、なんと「かき氷」売れるのか？自分のこと様に心配した。ポツリポツリとお客さんが見える頃には、少し日が差して来た。いつの間にか曇り空はどこか消え、暖かい日が差してきた。少しづつ人も増し、恒例の園児の演奏の頃は、人の行き来が難しくなってきた。花も風船も、忙しく売り捌く、毎年来てくれるお客さん「毎度、ありがとうございます。」だんだんと暑くなってきた。服を一枚脱ぐ。いつもの消防まつりになつてきた。忙しいと昼飯も、立つたままそこにあるものを頼る。これも恒例、毎年何を食べたか思い出せない。きつと焼きそばソースを口の周りにつけたまま、お客さんと対応しているのだろう。「いらっしやい。お花、風船いかがですか」チビっ子達がやって来た。キャラクタ風船が絶好調！風船を膨らます者、お客さんに渡す者、勘定をする者、これも立派なフォーメーションプレイだ。風船を待つ列の横にもう一列隣りに伸びる列がある。それはあの「かき氷」を求め列であった。しかも、うちの列よりも長い。朝の私の心配は完全に吹き飛んでいた。勝負している訳ではないが、うらやましい。お隣も絶好調。盛況のうちに餅投げも終わり、そろそろフィナーレ。今年も大盛況だったし、なによりも天候が良いのが一番だ。思い出せば、雨で苦労したとか中止だったとかは、記憶にない。消防まつりはいつも天候に恵まれてありがたいです。感謝の気持ちでいっぱい。団員の皆様お疲れ様、そして市民の皆様来年も来て下さいね。きつと晴れますから。



消防まつり

第十四分団 川浪 勇

今年も秋の火災予防週間の行事の環として、十一月十一日に富士市消防まつりが開催されました。今年も天候が気になりましたが好天に恵まれ嬉しかったです。

僕の所属する十四分団は例年通り焼イカ&焼もちしの出品です。値段は両方とも三〇〇円！安い！高いかはお客次第だと思えます。僕の仕事は、テントの裏で解凍したとうもろこしに割り箸を差し、醤油、みりん、酒で作ったタレをハケで全体に塗って焼き方に渡す仕事です。ずーっと立ちっぱなしの仕事なので腰が痛くなって少し大変でした。今年も焼イカの数を去年より増やしたと聞きました。焼もちしより焼イカの方が早く売り切れました。おかげ様でお昼過ぎには商品が売り切れて良かったです。毎年、親子連れ、お年寄り、沢山の人が消防まつりに来て満面の笑みで楽しんで過せるのがとても良い事だと思います。来年も多くの人が消防まつりに参加してくれるように分団の活動に協力し励んでいきたいと思えます。



これから夜警が始まりますが初心を忘れる事無くやっていきたいと思えます。



消防まつりに参加して

リズム幼稚園 園児父母 望月 音緒

消防まつりには子供の幼稚園が数多く参加しているの、三年ほど前から子供と一緒に遊びに来るようになり、毎年楽しみにしています。

特に今年も子供が鼓笛隊の一員として参加することになっていたので、消防まつりを心待ちにしておりました。親として子供たちにもこのような場所で演技披露出来たことは大変うれしく、ことであると同時に子供が成長している中、幼稚園時代のとても素晴らしい思い出になったと思っています。また子供にとっては地震体験車やミニ消防車に乗せてもらったりなど普段体験のできないことが出来たこと、エアクッションで遊んだりいろんなお店で買える物が出来たりしてとても楽しかったようです。

投げ餅は必死な思いで参加したのですが、お餅が全然とんでこなく少々残念でしたが、何より消防まつりの関係者の皆さんがとても親しみやすく温かな雰囲気でお祭りを盛り上げてくれたのがひしひしと肌で感じられたので、本当に素晴らしいお祭りだと思っております。家族ともども楽しい一日を過ごすことが出来ました。これからもこの消防まつりが長く続いて下さることを祈りたいと思います。

消防まつり

第二十分団 井出 文芳

今年の消防まつりは、晴天に恵まれて消防団出店の売れ行きも良かったのではないのでしょうか。

わが二十分団も今年も、今まで使用していた看板を一新しようと二日間をかけて完成しました。

この時期は秋の火災予防週間と地元の実相寺お会式警備と大変忙しいなか、団員の中でも調理担当班(シェフ)の皆様のご協力により準備を進めることが出来ました。

二十分団の出店メニューはイカ焼・貝を出していましたが、朝五時半からの準備は大変なので新メニューを考えていた所、揚げ物用のフライヤーが手に入り、「スティックぎょうざ」を出しました。あまり食べた事のないもので大変好評でしたが早いもので三年が経過し、また新しいものを作ってみたいという意見が多数あり、今年度はフライヤーを使用して出来るメニューを考えた結果、ホットドック・玉子サンド・クリームサンド・コロケパンと多数のメニューを出しました。

第一分団に入団して

第一分団 山田 俊彦

私の住む吉原地区には、三百五十年以上昔から伝承される吉原祇園祭「おてんのさん」があります。

私が入団した切っ掛けは、まさにこの祇園祭りでした。私が所属する第一

分団は、この祭りエリアのご真中。さらに各町内の青年長の多くが在籍し、先輩方もほとんどが青年長OBと言う特異なお祭り分団です。

そんな訳で団員の平均年齢も、他の分団と比べるとずっと若いのが特長です。祭りで培われた「絆」のせい、ポンプ操法やソフトボール大会などの消防団活動はもちろん、地域の文化祭やさくら祭りなどのイベントは、持ち前の「乗り」の良さですぐに話しはまとまり、大盛り上がりのお祭りさわぎに成ってしまいます。

昨年は入団間もない状況で右も左も解らないまま、訓練礼式に参加させて頂きました。先輩方や指導員の皆様、そして第一方面隊要員の仲間達と楽しい交流を深め、ますます消防団活動が好きになりました。

私生活の面でも、以外な人が団員だったり、思わぬ仕事が無理込んで来たり、又困った時にスタッフに加わってもらったりと、私の人生に大きなプラスに成っています。今後とも人の出会いや絆、そして優しさを大切に消防団活動を長く続けて行きたいと思えます。

火災期特別警備(夜警)

第二十分分団 芦澤 雅人

自分は平成十九年十二月一日に富士市消防団第二十分分団に入団しました。自分の父も同じ分団に所属し、昔から父の消防活動を見ており、自分もいつか入団したいと思っていました。(祖父も同分団に所属していました。)仕事にも慣れ少し余裕が出来たので、入団を決意しました。

入団をしたのが十二月ということもあり、入団するとすぐに夜警が始まりました。父を見てきた中で自分の夜警というイメージは、地域を消防車で廻り、詰所に泊まり、朝まで警備をする

と思っていました。しかし、話を聞くと昔とは変わり現在では詰所に泊まらず、二十時から二十四時までの警備と聞ききました。

十二月二十三日、初めて夜警当番が来ました。消防車にて二十時に詰所を出発、約四・五十分かけ地域を巡回しました。巡回中、同じ班の望月班長に消防団活動について色々な話を聞きました。地域住民を守る大切さ、そして火災における火の恐ろしさ等とても勉強になりました。また、巡回をしている途中、長沢付近に消防車が来て来たお父さん、お母さんがいました。この家族は、寒い中毎回外に出て声をかけてくれます。他にも手を振ってくれる子供や「がんばれー！」など、声を見てくれる子供もおり、自分の昔を思い出したように、とても元気づけられました。感動しました。

詰所に戻ってからも、消防の事や世間話など色々な話を聞き勉強になりました。二十一分団は、団員数が少ない為、夜警している人員が少ないですが、時間の空いている団員が手伝いに来たりし、チームワークが優れていると思えました。

みなさんこれからも「火の用心」を！



まもなく五十年

富士市まとい会 吉村孝夫

(若輩もの)

私は消防団に三十五年、富士市まとい会に入会して十三年、まもなく消防生活五十年を迎える。

私が現在所属する富士市まとい会は会員数百三十有余名、会員の中には驚くなけれ、筋金入りの背筋をピンと伸ばした、米寿を迎えられた六名の会員が現役で頑張っておられます。その姿に接するだけで何かと学ぶところであり、接する度に私などまだまだ若輩ものと思ひ知らされます。

(懐)

まとい会の年間事業は一月の出初式が始まります。

私が消防団に入団した当初の出初式は学校の校庭で開催されてきました。霜柱の上に整列し、足元からジンジンと寒さを感じ、吹く風に身を固めて整列してました。式辞や祝辞を賜りその都度行方号令に合わせた敬礼に関節の痛みを覚える事さえありました。

最近温暖化の影響が比較的暖かな出初式になっていますが、とは言え一月のこと、寒さが身にしみるのは言うまでもありません。この寒さの中でさやかではあります。この寒さの中でためにまとい会が振舞う温かくてうまい甘酒は来場者に好評です。持ち回りの当番制で会員が前日に仕込み、当日朝早く大釜の甘酒に火を入れ入念にかき混ぜた心のこもった一杯です。

十一月の消防まつりには「蔵出しバザー」で参加しています。会員が持ち寄った品物や農産物など安価で販売するため品物を並べるそばから来場者に買われていきます。売上金は毎年福祉協議会に寄付しています。ちなみに今年度は四万五千七百九十円でした。

(学ぶ)

まとい会会員は長年の消防活動で得た経験を生かし、富士市災害ボランティア連絡会の一員として東海地震などの災害に備えて研鑽に励んでいます。

「福祉まつり」での交通整理や会場整理又地域防災の担い手として防災訓練など積極的に参加し指導に当たっています。

静岡県が平成十四年度に自主防災組織の充実を目的に、地域防災指導員制度を発足しました。私も指導員を仰せつかり地域防災についてあれこれ模索しているところでです。

(願)

富士市が行っている防災機材購入補助金交付の中に道路端に置かれている消火器が補助対象になっていません。しかし私自身はこの設置の仕方地震で発生した火災を消火できるのか疑問に感じています。平成二十一年六月一日から住宅用火災警報器の設置が義務付けられる様になります。これと同じように各戸に消火器を配布(設置)する方が住宅火災には有効かと考えます。

そのためには各戸に設置する消火器についても補助金の交付があってもいいと思います。如何でしょうか。呆れず、伏せず、先輩諸兄のように人様の役にたつためにも、また自分自身のためにも益々健康でありたいと願っています。



「我が家の防火について」

第十六分団 班長 斉藤雅士

毎年火災季に入ると、毎日の様に悲惨な住宅火災事故のニュースが新聞やテレビで報じられ、ショックを受けることは私のみならず、だれしも同じことであると思います。おそらく原因の大半はちよつとした「火の不始末」や「火の取り扱い不注意」があつたであろうと思うが、起きる前に何とか防く手立てはなかつたのかとまず悔やまれるような被害状況が報じられるケースが多いと思います。私たちの身近な所では、幸いにも大きな火災事故は発生していませんので、このような火災事故のニュースが報じられた時はショックな思いをしますが、直ぐに忘れてしまふのも事実であると思います。

先日、家族団らん時に「我が家の防火」について話題になり初めて話し合いました。まず火の取り扱いで日頃感じることを出し合うことになり、その内容をまとめると大きく次の「六つの事に気を付けなければならぬこと」になりました。

- ① ガスコンロへの鍋の掛け忘れ防止や承知しながらのチョイ用事の禁止
 - ② 石油ストーブ周りには可燃物は置かないための注意と配慮
 - ③ 石油ストーブの給油タンク蓋の閉め忘れや締め付け不十分の防止確認
 - ④ 出かける前の火の元の確認、電気製品の消し忘れ確認
 - ⑤ 火の不始末は他人に任せないで自分で始末する癖を身につける
 - ⑥ たばこは家の中で吸わない、外で決まった安全な場所ですぐ吸うこと
- 次に、その対策は如何にするかを話し合いましたが結果的に、当たり前のことを確実に行うことで「火の不始末」や「火の消し忘れ」を防止することが



最も簡単な防火対策であるとの結論に達しました。しかしそこには「なれ」からくるマンネリ化という問題があるのではないかとことになり、このマンネリ化をどの様に防止するかの答えは直ぐには見つからず、自分で何か自信の持てる癖(習慣)を見つけ出し実行してみようということでのこの日の話は終わりました。

別の日、先日話し合った内容を別の角度から確認しようと富士市消防本部のホームページで富士市の火災発生状況を確認することにしました。火災統計では発生件数は年々減少しているものの平成十八年で八十三件発生し、内四十六件が建物火災で原因は①タバコの火の不始末②ストーブ、コンロの不始末であり、以外に多かったのが電気製品であることが分かりました。それ以外原因についてはほぼ話し合った内容であることも確かめられました。電気製品については専門性が高いため、消費者としては日頃どの様に注意したらよいか、難しい問題ですが、たまたま、先日の新聞で「消費生活用製品安全法」が本年五月から改正施行され、電気製品の重大製品事故の発生状況が

新聞で公表されました。発生が多い少ないは別にして、事故の内容はスイッチの不具合による過熱、コード類の不具合による過熱、製品の老朽化による出火となっていました。そこで我が家にもこれに類するケースが無い点検しようということになりました。

今回、あるきっかけで「我が家の防火」について家族で話し合うことが出来たのは、防火に対する意識が高まり大変良かったと思います。マンネリ化の問題は無意識のままの行動が最も危険であり、一人一人が改めるようにこころがけなければならぬことを共通の認識とし、まずは寝る前や外出の前に指差呼称「火の元ヨシ」を必ず励行(癖をつける)することにしました。

また、これからも時々家族で今回のように防火について話し合おうということを決めました。

- 富士市消防団広報紙編集委員
- 委員長 加藤秋徳
 - 第三方面隊長
 - 副委員長 鈴木貴之
 - 第十分団部長
 - 委員 本多信行
 - 第二十五分団部長
 - 委員 前田和徳
 - 第四分団部長
 - 委員 千葉和雄
 - 第十三分団部長
 - 委員 斉藤正道
 - 第二十六分団班長
 - 委員 小林久夫
 - 第二十三分団員